

NEWS LETTER

No.22
2018

12月4日(月)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)3機関合同シンポジウム開催 「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター（DNP）、山形県立米沢栄養大学の3機関は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」に連携して取り組んでいます。6年間の事業期間の中で今年度は中間年にあたります。このたびは女性研究者の研究成果を報告し、3年間の実績や事業の効果を振り返るために、平成29年12月4日にシンポジウムを開催しました。会場の山形大学米沢キャンパス未来ホールには130名、大日本印刷株式会社の会場に3名、合計133名が参加しました。地元の女子高校生はじめ、地域の行政や高校・大学からも多数出席いただき、これまでの最高の参加人数となりました。

1. 来賓祝辞 伊藤 賢 氏(文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課人材政策推進室長)

女性研究者について日本や世界の現状を説明され、次のように述べられました。「山形大学ではCOI事業に取り組み、工学分野において産業界と連携して共同研究を実施し、女性研究者の活躍の場を広げるという土壌は既にできています。事業計画は評価されており、好循環のモデルを3機関で作って、全国に波及していただきたい。女性活躍は長いスパンで考えていかなければならないので、息の長い取組みを期待したい。」



伊藤 賢 氏

2. 基調講演 「女性研究者支援・育成の現状と今後～未来の生活創造への女性研究者の参画～」

山本 恵司 氏 (国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管)

地域の豊かな未来の生活を創造していくうえで、女性研究者の参画が必要です。基調講演では、女性研究者支援の現状や課題とともに未来を拓く可能性をテーマに講演していただきました。日本ではダイバーシティ化が遅れており、諸外国と比べると女性研究者の上位者がまだまだ少ないなど、女性研究者への支援・育成現状について説明がありました。その上で各大学の先進的な取組みについて詳細に紹介され、本事業に貴重な示唆をいただきました。



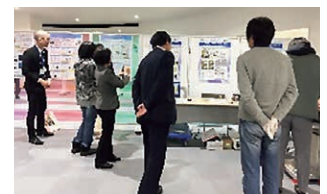
山本 恵司 氏

3. 取組報告 「3年間の実績報告と今後の展開について」

- ① 3年間の実績報告 井上 榮子(山形大学男女共同参画推進室 准教授)
- ② COIと連携した展開 大野 浩平(大日本印刷株式会社研究開発センター 研究管理部長)

4. 研究成果の発表

- ① 泉 小波(山形大学有機エレクトロニクス研究センター 産学連携准教授)
「有機エレクトロニクスデバイス作製に向けた印刷技術の開発」
- ② 金光 秀子(山形県立米沢栄養大学健康栄養学部健康栄養学科 准教授)
「栄養成分値からみた『米沢らーめん』の展望」
- ③ 松尾 佳菜子・松田 久仁子(大日本印刷株式会社情報イノベーション事業部)
「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～プロジェクトの活動概要と経過報告」



米沢会場

◎事業の中間総括と今後の方針

本事業の成果として、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加について報告しました。昨年度、事業への総参加人数は前年比1.4倍に、支援人数は2.8倍に、研究業績は2.7倍に増加しました。女性代表共同研究の支援は本事業の要であり、3年間で14件の支援を行っており、研究成果を発表した3つの研究以外はポスター発表を行いました。米沢、小白川、飯田、鶴岡の各キャンパスの女性研究者が採択されています。

振り返ってみますと、3機関のそれぞれの強みを活かした密接な連携により、誇るべき成果が得られたと言えます。今後も、本事業は、事務局である米沢分室を中心に連携体制を維持し、事業を継続していきます。また、取組みの成果を継続・発展させるため、ライフイベントに配慮した人事評価制度や人材交流、山形大学のCOIとの連携、ダイバーシティの大学間ネットワーク構築と南東北への拡大などに取り組んでいく方針です。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の紹介

5月31日(水)小白川キャンパス
7月20日(木)米沢キャンパス

◎理工系英語論文セミナーを開催しました。

女性研究者の研究力向上を目的として、英語論文の添削・指導の経験が豊富な講師を外部から招き、連携機関に所属する研究者、学生等(男性も含む)を対象として理工系英語論文セミナーを開催しています。



小野 義正 氏

今年度は、小野義正氏(理研創発物性科学研究センター 客員主管研究員)を講師に迎え、理工系英語論文セミナーを開催しました。参加者からは、「簡潔な文への書き直しなど具体例で説明していただき疑問に思っていたことが理解できた」「今回得た知識を活用して、今後実践で役立てたい」「大変有意義なセミナーに参加させて頂きありがとうございます」などの感想が寄せられました。第1回、第2回あわせて100名近くの方にご参加いただきました。

7月27日(木)外部資金獲得セミナー
8月6日(日)女性研究者発表会

◎外部資金獲得セミナー・女性研究者発表会を開催しました。

米沢栄養大学を会場に、児島将康氏(久留米大学分子生命科学研究所遺伝情報研究部門 教授)を講師に迎え、「科研費獲得の方法とコツ」についての講演をしていただきました。科研費獲得のための申請書作成の際にどのような点に気をつければよいかについて、実践的にわかりやすく講義をしていただきました。参加者からは「書き方の良い例、悪い例が多く示されてわかりやすかった。改良方法を具体的に示してくれたので大変有意義であった」など感想が寄せられました。米沢栄養大学を主会場に本学各キャンパスにテレビ会議で配信され、本学教職員、米沢栄養大学からあわせて52名(男性も含む)が参加しました。



児島 将康 氏

8月にも米沢栄養大学において、体験入学の日程の中で3機関の女性研究者発表会が行われ、本学からは三原法子先生(地域教育文化学部担当)と黒谷玲子先生(理工学研究科担当)に発表していただきました。

7月12日(水)~14日(金)山形大学へ
9月27日(水)~29日(金)大日本印刷株式会社(DNP)へ

◎交換留学を開催しました。



SCITAセンター 栗山恭直先生

連携機関に所属する女性研究者が、異なる研究環境等を有する女性研究者との交流により、女性研究者にとっての阻害要因を見出し改善に繋げることを目的として、交換留学が行われました。

7月に、DNPの5名の研究者が、山形大学(工学部・理学部・SCITAセンター・医学部)、米沢栄養大学などを見学しました。

9月には、山形大学より8名(学部生3名、博士前期課程5名)、米沢栄養大学より学部生2名がDNPの市ヶ谷賀町ビル(東京都)、研究開発センター(千葉県柏市)、つくば総合開発センター(茨城県つくば市)を訪れ、交流会、研修、施設見学などが行われました。

今年度は、女性研究者だけでなく男性研究者とも交流が行われ、研究に対する姿勢や働きやすい環境などについて直接見聞ささせていただきました。市ヶ谷にはDNPファシリティーサービスが運営する食堂があり、豊富なメニューに加え、社員の健康を考えたメニューも多数提供されておりました。また、管理栄養士の方が管理、運営に携わっており、キャリアについてもお話を伺いました。参加学生から「研究者の皆さんはどんな質問にもしっかり答えてくださり、今後のキャリアを考えるうえで、勉強になることばかりでした」「結婚・出産をしても、女性にとって周囲の理解や配慮があり、働きやすい職場だと思いました」「様々な方と交流ができ、とても充実した経験となりました。交換留学に参加できたことに感謝しています」など感想が寄せられました。



市ヶ谷 DNP

◎博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

山形大学学士課程基盤教育機構 松坂暢浩氏を講師に、就職が決まったドクター3名をパネリストに迎え、博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナーを開催しました。昨年に引き続き、今年も山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院と共同開催しました。米沢キャンパス(工学部)の参加者は22名、テレビ会議中継の小白川キャンパスからは5名の合計27名の参加でした。「身近な先輩のお話から、自分が何をしたら良いのか具体的に見えてきました」「先生のお話は、おもしろく、わかりやすく、聴講してよかったですと思います。先輩が女性活躍の話をして下さって、理学部の女子学生は目がキラキラしていました」などの感想がありました。



松坂 暢浩 先生

11月9日(木)

山形銀行と企業主導型保育所を新設

山形大学と山形銀行は、「仕事と子育ての両立」を支援するため、山形大学小白川キャンパス内に企業主導型事業所内保育所「つぼみ」を連携して開設します。11月8日(水)、保育所の設置・運営に関する相互協力及び連携について、協定書を締結しました。国の企業主導型保育事業※(整備費)の助成が決定しており、来年度6月に開所予定です。

※平成28年4月から企業主導型事業所内保育を支援(整備費、運営費の助成)する事業が進められています。待機児童の解消をめざし、多様な保育サービスの拡大を図るものです。これにより大学が企業と連携して学内保育所を設置し、認可保育所並みの補助金を受け、子育てを共同で支援できるようになりました。また、地域枠定員を活用し、地域の子育て支援にも貢献できます。



協定書の締結式

1. 連携の経緯

山形銀行(長谷川吉茂頭取)では、平成17年の「仕事と育児の両立支援宣言」を行い、「ワークライフバランス推進室」を設置し、働く女性の両立支援に力を入れています。平成27年に全国初の「プラチナくるみん」に認定され、県内でも「優秀(ダイヤモンド)企業」に登録されていますが、事業所内保育所は開設していませんでした。

山形大学も両立支援の取組みを進めており、平成28年度に県内大学初の「くるみん認定」を取得しました。大学内保育所としては、医学部保育所「すくすく」と病児保育室、小白川キャンパス保育所「のびのび」を運営しています。

両立支援の一層の充実を図るために、山形銀行と昨年度末より検討を重ねてきた結果、山形大学が敷地を提供し、山形銀行が整備費と設備費を負担して建設することになりました。なお、保育所「のびのび」(定員30人)についても、同日、山形銀行と共同利用に関する協定を合わせて締結しました。



大学の授業見学

2. 企業主導型保育所「つぼみ」の紹介

保育所の子どもたちはキャンパスの植物が大好きなので、名称は「つぼみ」に決めました。

場所：保育所「のびのび」に隣接、保育室33.05㎡、鉄骨造り

対象：山形大学の教職員・学生、山形銀行の職員、山形市在住の方

保育：定員10人(0歳・1歳児)、体調不良児保育、自園調理など

保育所「のびのび」の調理施設・園庭などを共用



ピクニック・コンサート

学長・理事と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会を開催

ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、改善すべき問題の把握と率直な意見交換を目的に懇談会を実施しています。

地域教育文化学部(小白川キャンパスI)

テーマ「子育て世代の職場環境」

子育ての実情や両立の工夫などに関して参加者から報告があり、意見交換を行いました。「職場で積極的な声掛けがあり職場環境が改善されてきている」「夕方の会議が無くなり、早く帰って子育てができるようになった」などの声がありました。支援制度の手続きは煩雑な面もあるが、制度継続のために利用してきたという貴重な報告もいただきました。



9月6日(水)
11:50~13:00
19人参加

人文社会科学部・理学部・学士課程基盤教育機構(小白川キャンパスII)

テーマ「WLBから見たイクボスの取り組みについて」

イクメン・イクボスの普及に取組んでいる株式会社ジョインセレモニー様に講演いただきました。取組み事例を紹介いただいたから、参加者が意見交換を行いました。強力なリーダーシップのもと、優秀な人材を確保するためにワーク・ライフ・バランスを徹底している企業の取組みから、多くの示唆をいただきました。



12月6日(水)
14:40~16:00
100人参加

工学部(米沢キャンパス)

テーマ「男性比率が高い米沢キャンパスでの男女共同参画について」

男女共同参画推進室米沢分室、女性研究者、学生相談室からの話題提供の後、意見交換を行いました。「性別、年齢、国を超えて、お互い一人ひとりで尊敬の念を持って対する意識について大学全体で伝える機会が必要だ」と「ダイバーシティ事業が始まってから、女性教員が働きやすい環境は整ってきたと思う」との感想が寄せられました。



12月22日(金)
16:00~17:00
20人参加

農学部(鶴岡キャンパス)

テーマ「働きやすい職場環境を実現するためのワーク・ライフ・バランス」

研究、教育、日常業務で日頃感じていることに関して意見交換を行いました。困っていると声を上げることのできる雰囲気、急な休みに仕事を頼める仲間、コミュニケーションなどが大切だという意見が出されました。「チームです仕事」という観点から、講義の代替や実験室の施設などの仕事分担を検討してみることが確認されました。



11月20日(月)
16:15~17:15
16人参加

三原 法子 先生

学術研究院(地域教育文化学部担当)
講師



平成27年に、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」事業による女性代表共同研究費支援制度が開始された。本制度は、連携機関(山形大学、大日本印刷株式会社、米沢栄養大学)に所属する女性研究者に研究費

の支援を行い、研究力向上を目指す事業である。女性研究者が研究代表者となり、研究代表者が所属する機関以外の連携機関に所属する研究者等とともに研究を支援している。私が代表を務める共同研究は、平成28年6月1日に「適正な嚥下調整食提供のためのモバイル食品物性評価ツールの開発」というテーマで採択され、今年度まで継続研究している。共同研究者は、江口智美先生(米沢栄養大学)はじめ7名の先生方である。

さて、世界に類を見ない超高齢社会のわが国の国策の一つに挙げられるのは、「地域包括ケア・システムの構築」である。このシステムは、医療・介護・予防・住まい・生活支援を県や市町村単位で包括的に連動する体制を確立するものであり、その体制において特に嚥下機能が低下した者への食事が担う役割は大きい。県や市町村は、その関連部署や事業は立ち上げたものの、その運用までには至っておらず、模索している最中にある。我々の研究は、地方都市型の地域包括ケア・システムでの食事を中心とした具体的な運用システムの確立を目的としている。

「適正な嚥下調整食提供のためのモバイル型食品物性評価ツールの開発」

前研究において、病院や介護施設で提供されている嚥下調整食の名称・性状や嚥下調整食を決定している職種等の実態調査および物性値測定、嚥下調整食を喫食している75歳以上の要介護者を対象とした咀嚼・嚥下機能、栄養状態等の調査を行ってきた。その結果、2016年4月の医療改正で保険点数加算となった、日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013の説明基準に当てはめて食事を提供しても、咀嚼・嚥下機能と合わない食事が提供されていることが明らかとなった。これらのことから、簡単で安価、安全なモバイル型食品物性評価ツールの開発が必要であると考え、まずは、同コースの鈴木拓史先生、山岸あづみ先生(現新潟県立大学)とグループ研究を行うことの同意を得、その後、大学のマッチングシステムを活用し、理工学研究科の専門家(西岡昭博先生、香田智則先生、村澤剛先生)をはじめとする先生方と共同研究する運びとなった。この研究を遂行していた2年間は、私にとり、過酷な時期であった。それは、研究において、他分野との横断的研究が初めてであったため、共同研究者の思考を探ることから始めなければならなかったからである。加えて、私生活の面で、両親の介護生活と経済面を支えなければならなかったこと、そして、他界と目まぐるしい日々が続いたからである。しかし、両親の介護から死までの体験は、研究に結び付く新たな要素の考案に繋がったと考え、他分野との共同研究だったために、今回の成果を出すことができたと思う。

今回の2年間の研究「適正な嚥下調整食提供のためのモバイル型食品物性評価ツールの開発」の

成果は以下である。

- ①病院・施設の嚥下困難者の食事の名称やかたさが統一されていなく(n=50)、前研究と同様の結果となった。
- ②学会分類を意識して食事を提供している病院でさえも、基準よりも遥かにやわらかく調理されており、咀嚼・嚥下機能よりも低いレベルの食事が提供されていることが明らかとなった(n=50)。
- ③理工学研究科でのモバイル型食品物性評価ツールは、「かたさ」のみ測定できるプロトタイプ1号機を製作し、4号機まで改良した。
- ④プロトタイプ4号機のかたさのモデル試料と協力施設で実際に提供している嚥下調整食との検証では、精密機器と強い正の相関を示し、かたさは正確に測定できることが示唆された。
- ⑤商品化を目的とし、実質の運用に近づけるための素材や形を変更した5号機を製作した。これまでの共同研究者の皆様のご協力と女性代表共同研究費支援制度に感謝し、モバイル型食品物性測定装置の実用化に向けて今後とも努力していきたいと考えている。



飯豊町のフィールドプロジェクト

女性研究者裾野拡大セミナー・パネル展示を開催しました。

農学部 「農学部ってどんなところ?女性研究者ってどんなひと?」7月30日(日)オープンキャンパス
女子高校生と保護者を対象にセミナーを開催し、体にいい油を使ったサラダの試食も好評でした。参加者から「女性研究者の活躍がすごいことがわかった。ぜひ農学部に入りたい」「農学部進学のかっけに共感できた」などの感想がありました。

理学部 PART 1 「理学部で何ができるのか?女子高校生のための山大理学部案内」8月28日(月)
PART 2 「理学部の研究室を覗いてみよう!」12月16日(土)
山形西高等学校の生徒を対象に、1回目は理学部の研究・教育内容を紹介し、2回目は希望のコースに分かれて講義や実験に参加しました。参加者は時に真剣な表情で、時には驚きの声をあげ、楽しそうに取り組んでいました。

工学部 「女性研究者紹介・男女共同参画フェスタのパネル展示」8月4日(金)オープンキャンパス
男女共同参画推進室米沢分室が、オープンキャンパスに参加した生徒や保護者を対象に、女性研究者紹介パネルの展示や「女性研究者シーズ集」などの配布を行いました。(パネルは貸し出しできますので、各学部でもご利用ください。)



農学部 井上奈穂先生の講義



理学部 化学コースの実験風景



工学部 女性研究者紹介パネル展示

編集後記/平成21年に山形大学男女共同参画推進計画を定めてから、まもなく10年になります。今年度はダイバーシティ事業の中間総括を終え、今後の展望も見えてきました。次の第二次基本計画策定に向け、来年度は「男女共同参画に係るアンケート」を実施する予定です。男女共同参画の実現のためには息の長い取り組みが必要です。今後ともご協力を宜しくお願いします。(2018年2月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4938/4939
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/